

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	：十分達成できている
B	：おおむね達成できている
C	：やや不十分である
D	：不十分である

学校名	唐津市立北波多中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学びについては、興味・関心がないと難しい。また、小学校時代にもうすでに苦手意識があるとそこからなかなか抜け出せない。したがって、各教科どのように学習を進めるべきか、教師側がいかに興味を持たせる授業づくりをするかなどさらに検討していきたい。 保護者や地域の協力、支援を受けて様々な行事を成功に導くことができた。行事を通して達成感や成功体験を積ませることで、生徒の自己肯定感を育てている。今後も業務改善や行事の精選など行いながら勤務時間の適正化を図る必要がある。 生徒会を中心に、平和集会やボランティア活動を通して、人を思いやる気持ちや自他を大切にすることを意識を高めていきたい。 いじめの早期発見、早期対応に対して、気になる生徒への声掛、保護者の意見を把握、職員の研修会、計画的な教育相談を効果的に活用していく。また、職員全体で情報を共有し、迅速な対応を心がける。
2 学校教育目標	自他を大切に、互いに認め合い、共に高め合う生徒の育成

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①一人一人が大切にされる学習づくり ②自己指導能力を高める生活づくり ③互いのよさを認め合える仲間づくり
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学びを自ら調整することに視点をのこした授業実践	○「学習に見通しをもち、理解の状況に応じて学習を調整しよう」と努めた」に肯定的回答をする生徒80%以上	・「唐津の学びスタイル」を踏まえ、全教科で「ラーニング・マウンテン」を作成・活用する。	B	・「ラーニング・マウンテン」を全職員で実践するための研修を行うことができた。 ・1月の学校評価アンケート調査で肯定的な回答した生徒が「学習に見通しを持って取り組んでいる」91%、「自分の理解の状況をつかみ、それに合わせて学習を調整しよう」と努めている90%。同内容で保護者回答は「見通し」63%、「調整」60%であり、「わかる授業」の実現に向け、授業改善を続ける必要がある。	B	・学力の高い生徒を伸ばすことも大事で、指導の重点をどこに置くべきかは難しい課題だと思う。学力下位の生徒への支援も、さらに充実させる必要がある。教師が現状に満足しない姿勢が大事である。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「地域の特色や教育力を生かした教育活動を行っていると思う」に肯定的回答をする保護者80%以上	・「いきいき学ぶからつっ子育成事業」での地域人材による体験活動や、外部講師による講話を実施する。 ・地域人材による平和学習の講話を実施する。	A	・地域人材を活用した「陶芸体験教室」を全学年で実施し、完成した焼き物を保護者や地域に紹介することができた。 ・平和集会では県道旅会による講話を、3年生の修学旅行事前学習では地域人材による講話を実施した。いずれも、地域からも数名参加された。 ・アンケート調査で「地域の特色や教育力を生かした教育活動を行っていると思う」に肯定的な回答をした保護者は95%であった。	A	・陶芸体験や平和講話など、生徒の心を耕す教育活動において、先生方が意図的に取組を仕組んでいて、子どものためになっていると思う。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校はいじめのない楽しい学校づくりに努めている」に肯定的回答をする保護者80%以上	・いじめアンケート、生活アンケート、Q-Uの実施、年2回の教育相談期間の設定等を通して早期発見に努める。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。	B	・いじめアンケートとQ-U、教育相談を実施し、未然防止、早期対応に努めた。 ・予定していた研修はもちろん、SOSが出せる、気づき行動できる生徒の育成を目指し、複数回の振り返りの機会を設けた。 ・アンケート調査で「学校はいじめのない楽しい学校づくりに努めている」に肯定的な回答をした保護者は83%。また、「先生(学校)は相談に対して誠実に対応している」に肯定的な回答をした生徒は88%、保護者は87%であった。	B	・アンケート回答のすべての意見が肯定的になることは難しい。思春期特有で、家庭よりも友人関係を重視した会話が多くなり、見えないところで複雑になるケースもあると思う。 ・子どもたちに温かく寄り添い、一生懸命に関わってくださっている様子が伝わってきた。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていてと思う」に肯定的回答をする生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」に肯定的回答をする生徒80%以上	・生徒会本部を中心に自治活動を仕組み、生徒を承認する機会を増やす。 ・生徒指導の3機能を生かした取り組みについての研修を行う。	A	・「複業先生」を活用したキャリア講話、高校生に学ぶ会などを実施した。地元にはない職業や多様な働き方について知識を広げたり、高校生に直接話を聞いたりして、学びを深めることができた。生徒を承認する機会をさらに増やしていく。 ・「先生はあなた(子ども)のよいところを認めてくれると思う」に肯定的な回答をした生徒は86%、保護者は91%。「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした生徒は74%であった。	A	・いまは存在しない新しい職業も生まれてくるため、多様な働き方についての学びはとても良い取組だと感じた。 ・憧れる先輩の姿があることは子どもたちの成長につながる。子どもが自ら企画して行動する経験を大切にしていってほしい。
	○生徒のボランティア精神の育成	○校外内の行事・清掃美化活動・ボランティア活動を1度は体験した生徒80%以上	・生徒会(ボランティアBANK)を中心に企画・運営を行い、生徒の自主的な活動の機会を設ける。 ・通信等による広報、メディアの活用を通して意識の高揚を図る。	A	・生徒会を中心に、ペットボトルキャップの回収、募金活動、花植え等の企画・運営を行った。地域行事での運営・募金活動のボランティアも呼びかけた。 ・地域の独居老人へのメッセージカードづくりでは全校生徒が心を込めて作成し、連携した団体からも大変喜んでいただいた。 ・各通信や参加者名簿の掲示、参加証の発行を通して意識の高揚を図った。 ・「校外内での清掃美化活動や募金活動、地域行事の運営などのボランティア活動を1度は体験した」生徒は64%、複数回体験した生徒は33%であった。	A	・地域や学校で主体的にボランティア活動に取り組んでいる生徒がいることは良いと感じる。地域の方との関りも生徒の成長につながるため、そのような機会を継続してほしい。
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○スマホ、ゲーム保有者の使用時間2時間以内/日(月～金)の割合70%以上	・生徒や保護者向けに年1回以上情報モラル講座を行う。 ・学活、保護者懇談会等でスマホの危険性や功罪について考える機会を設ける。	B	・防犯教室にて生徒に情報モラル講話を行った。学活等の授業や長期休業前の集会でも考える機会を設けた。保護者にもプリントで周知協力を求めた。 ・1月の新入生説明会で、入学を控えた保護者向けに情報モラル講演を行い、保護者の意識を高めることができた。 ・「スマホやゲーム機の使用時間が1日当たり2時間以内(月～金)」と回答した生徒は39%。「3時間以上」が33%という結果を重く受け止め改善に努めていく。	B	・スマホやゲーム機の長時間利用が、睡眠不足や家庭学習時間の不足につながっていると考えられる。学校の指導だけでは解決が難しく、家庭での適切な関わりと協力が重要である。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限の遵守 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・部活動休業日、定時退勤日の設定と声かけを行う。 ・長期休業中に、教職員が休暇を取得しやすい環境を整備する。	B	・月の時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合は11%であった。長期休業中に、休暇を取得しやすい環境を整備した。 ・職員1人当たりの年次休暇の平均取得日数は4月～12月で10日、4月～2月で11日であった。特に経験年数が少ない教員が取得日数も少ない傾向にあるため、継続して声掛けを行っていく。	B	・先生方の業務負担は大きく、日々大変な状況であると感じる。人員不足の学校が多いとも聞いている。より働きやすい環境を整える取組が大切。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○「特別支援教育に関する専門性が向上した」に肯定的回答をする教員75%以上	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・校内特別支援会議等での情報共有の仕方を工夫する。	B	・特別支援教育に関する職員研修を実施することができた。月に一度、校内特別支援会議を設定し、支援を要する生徒についての情報共有を図ることができた。 ・「研修により特別支援教育に関する専門性が向上したと思う」に肯定的回答をした教員は93%であった。	B	・特別な支援を必要とする子どもたちに対して、先生方が寄り添って関わってくださっていると感じる。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○誰一人取り残さない教育活動の充実	○UDを意識した学習環境の整備と協働的な仲間づくりに向けた人間関係の構築	○「学校に行くのは楽しいと思う」に肯定的回答をする生徒80%以上 ○「学校は、学校教育目標や重点目標に基づいた教育活動ができていると思う」に肯定的回答をする教員80%以上	・教員が「仲間づくり部会」「分析・調査部会」「GIGA部会」のいずれかに属し、実践力を高めるためのアイデアの共有を行い、実践する。	A	・「授業の分かりやすさ」についてのアンケートを2回実施し、結果を各教科で共有した。その結果をもとに各教科で授業改善を行った。 ・不登校、相談室登校への対応を継続して行った。今後も校内研究を充実させ、実践力を高めていく。 ・「学校に行くのは楽しいと思う」に肯定的回答をした生徒は85%。また、「学校は、学校教育目標や重点目標に基づいた教育活動ができていると思う」に肯定的回答をした教員は100%であった。	A	・「学校に行くのは楽しいと思う」生徒が多いことは良いことだと感じる。今後も生徒が安心して学び、互いを認め合える環境づくりがさらに進んでほしい。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 1人1台端末を活用した授業改善が不十分である。1人1台端末の活用を広げ、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ授業改善に取り組む。また、学校DX化による業務改善にも取り組む。 行事運営、生徒指導において、細やかな情報共有が不十分である。会議や情報共有の方法を工夫し、組織的対応の充実に向けて取り組む。 多くの外部講師に支援していただき、対面だけでなくオンラインでの講話等も行い、生徒が視野を広げ、深く考える機会を持つことができた。外部支援を教職員への研修にも広げるとともに、人権教育や特別支援教育、不登校対応の充実に向けて取り組む。
--------------------	---